

Matsuyama Red Cross Hospital

地域医療連携室報

2021.4

No. **89**

基本理念

人道、博愛、奉仕の赤十字精神に基づき、医療を通じて、地域社会に貢献します。

基本方針

- 1 最適で質の高い医療を提供し、患者に優しい病院を目指します。
- 2 多職種によるチーム医療を実践し、安全・安心な医療を提供します。
- 3 地域の医療機関、保健・介護・福祉と連携を図り、急性期医療・専門医療を実践します。
- 4 災害医療、国際救護活動の充実を図り、赤十字事業を推進します。
- 5 将来を担う人材の確保と育成に努めます。
- 6 一人ひとりが生き生きとし、働きがいのある病院を目指します。
- 7 健全経営の維持に努めます。

南棟オープンご挨拶

院長 横田 英介



連携医療機関、施設の皆様には日頃から地域医療支援病院としての当院の運営にご協力いただき心から感謝申し上げます。

2014年10月に起工式を上げ着工した新病院建設は、2018年1月の北棟に続き、2期工事の南棟が完成し3月15日にオープンしました。

新病院の基本方針の一つに「環境に優しい病院」があります。この方針に基づき、国土交通省の補助事業である「サステナブル建築物等先導事業」に応募し、「自然エネルギーを有効活用したエコホスピタル」「快適な療養環境の創出と提供」「環境に優し

いガーデンホスピタル」を軸とした設備、機能を取り入れることで、エネルギー自立と省CO₂を満たした病院に生まれ変わります。北棟の屋上緑化や天井に久万高原町産のすぎ材を使用した2階まで吹き抜けの明るく開放感のあるエントランスホールで感じていただけたと思います。病棟では自然採光と日射抑制を両立した簾(すだれ)ルーバーや自然換気を採用し患者さんの療養環境に配慮しています。

今後、旧棟の解体後に平面駐車場の整備を行いグランドオープンは2022年の予定で、工事期間中は患者さんを始めご来院の皆様にはご不便をおかけすることになりますがご協力の程お願い申し上げます。





南棟1階に新しい患者支援センターがオープンしました。人材・実績・構想とも充実した当センターの唯一の弱点が老朽化した施設でしたが、今回の南棟オープンで、それが一掃され、名実ともに当院の基本理念である「医療を通じた地域社会への貢献」のための中核組織として始動しました。

振り返りますと、1997年に白石恒雄名誉院長が県下初の取り組みとして、現在の地域医療に不可欠の存在となった「地域医療連携室」を開設、地域の先生方をはじめとした医療従事者の皆さまの多大なご協力を得て2005年には故淵上忠彦前院長が目指していた「地域医療支援病院」の承認を受けることが出来ました。その後も、地域医療連携室が地域完結型医療の中核として活動してきましたが、2018年北棟オープンに合わせて、更に質の高い医療を地域に提供するため、横田英介院長の英断で患者支援センターを開設、地域医療連携室はその一部門となりました。

当センターには、地域医療連携室の他、療養支援室、医療相談室、病床管理室の4部門を設け、地域の医療機関と患者さんをつなぐ「安心・安全」の架け橋となるように活動を続けます。昨年からは、医療連携に深い理解を示し、断らない医療に日々努めている盛重邦雄第一循環器科部長が副所長として活躍しています。

年々短縮する平均在院日数にあわせて、南棟オープンと同時に病床数を632床から585床にダウンサイジングを行いました。また、一向に先が見えないコロナ禍に引き続き対応するため31床を準備していますので、計78床減らしています。病床利用率が上がり、地域医療支援病院として機能するために、従来以上に、病床管理が重要になりましたので、Patient Flow Management (PFM)の考え方を取り入れた病床管理室を開設しました。輪番制救急のため、病床利用率の平準化が困難ですが、病棟業務の標準化を進めるなどの工夫を行い、「満床で受け入れできない」事態の回避に努めます。今までも後方連携医療機関の皆様には当院からの転院に多大なご協力を頂いていますが、今後は、これまで以上に短期・円滑な転院調整が必要ですので、ご高配頂ければ幸いです。

2007年に連携のICT化と地域住民への啓発活動を目的とした愛PLANetという地域医療連携システムを開始しましたが、時期尚早だったようで、活用が進まず、中断しました。しかし、その後、同様のコンセプトの地域包括ケアシステムの構築が全国で図られていますので、当センターでも再度、活用しやすい連携システムを再構築する予定です。皆さまとともに、患者さんの立場を尊重する質の高い医療とその連携を目指しますので、引き続きご理解・ご協力をお願い申し上げます。





はじめに

昭和から平成、平成から令和と時代が変わる中、現代では病院や医師個人における多様性や個性が求められており、時代の流れについてゆくためにはそれぞれの特徴を育てる努力がますます必要であると言えます。

当科では腹腔鏡という特徴をもって地域をリードしてまいりました。その特徴を大事にしつつ行っている新しい試みと産婦人科領域の新しい治療方法の変化についてお示しいたします。

婦人科がんの新しい治療について

本邦において婦人科がんの罹患率はここ数十年で大きく変化し、卵巣がんは約3.6倍、子宮体がんは約13倍と大きく増加しました。以前は最も少なかった子宮体がんが最も多くなり、卵巣がんが最も少なくなりました。逆に死亡率に関しては最も罹患率が低い卵巣がんが最も高く、最も高い子宮体がんが最も少ない逆転現象が見られています。その原因は卵巣がんが健診で発見しがたく進行癌として見つかりやすいことに起因しています。しかしながら卵巣がんの主たる治療である化学療法は1990年にプラチナ/タキサン治療が確立されてから約20年以上大きな変化は血管新生阻害薬：ベバシズマブが承認されたのみでした。その停滞期を超え現在大きな変化が訪れています。その大きな要因は遺伝子に基づいた治療が可能となったことに起因します。これまでの卵巣がんや子宮体がんなど組織ごとの治療法からそれぞれの患者さんにおける癌の遺伝子異常をもとに治療ができるようになってきました。遺伝子異常が確認された患者さんにはより効果が期待できます。このように条件を満たすかどうかの遺伝子検査のことをコンパニオン検査といいます。通常コンパニオン検査は一つの治療薬に対して一つの検査となりますが、2020年に当院でも行えるようになった遺伝子パネル検査は多くの遺伝子検査を一度に行うことが可能となりました。それにより癌の種類を超えて条件に見合う治療薬や治験が可能かどうかを一度に調べることが出来るようになりました。いまだ課題も残されておりますが、今後それぞれの遺伝子に対する治療方法が増えればさらに治療の幅が広

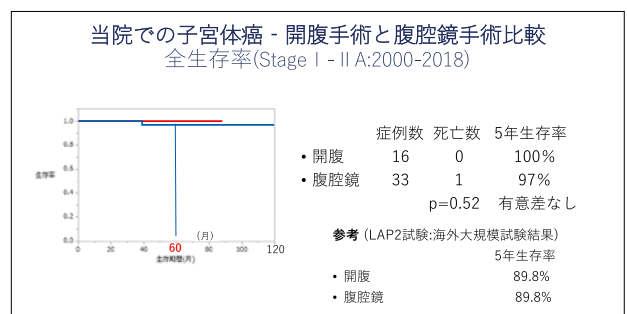
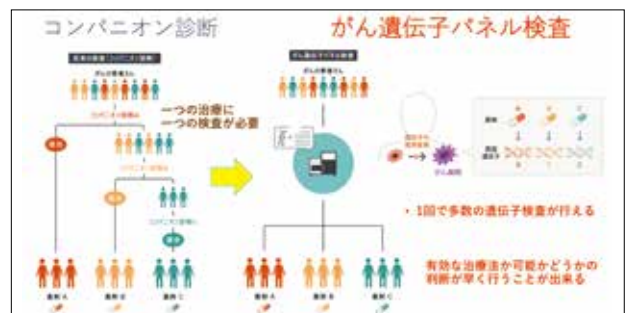
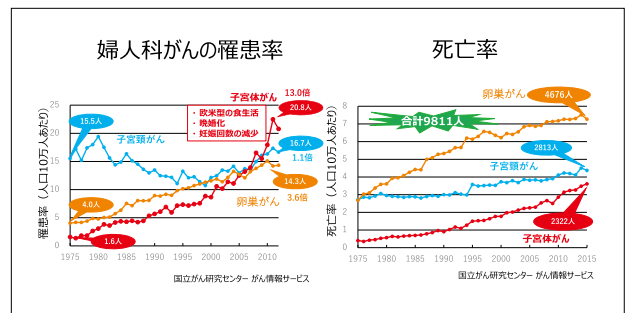
がるのが期待されます。

婦人科領域の新しい手術療法について

婦人科のみならず、昨今侵襲のより少ない手術が進展しております。これまで侵襲が大きくならざるを得なかった一部の癌の手術も含め腹腔鏡手術やロボット支援下手術でも開腹手術に遜色ない予後が示すことが出来るようになりました。当院でもその導入に尽力しており、去年までに保険診療で子宮体がんの腹腔鏡下手術や良性疾患のロボット支援下手術が可能となりました。

まとめ

遺伝子治療や手術方式など新しい治療法が大きな改革のうねりとなって変化している令和の婦人科治療ですが、当科でも研鑽を重ね最新の治療を行ってまいります。



令和3年度 イブニングセミナー

がん診療の進歩と最近の話題を再開します

「愛媛県医師会」と共催で開催しており、日本医師会生涯教育制度の1単位とカリキュラムコードが取得できます。

開催日	講演テーマ	演者名	カリキュラムコード
4月22日	中止(新型コロナウイルス感染症～これまでとこれから～)		
5月27日	大腸癌の最新治療	臨床腫瘍科部長 白石 猛	54 便通異常(下痢・便秘)
6月24日	泌尿器科がんに対するロボット手術の現状	泌尿器科部長 矢野 明	65 排尿障害 (尿失禁・排尿困難)
7月29日	血液疾患の最近の話題	血液内科部長 浦田 真吾	28 発熱
8月26日	肺がん免疫療法最近の話題	呼吸器内科部長 兼松 貴則	46 咳・痰
9月30日	進化する肝細胞癌治療	肝胆膵内科副部長 越智 裕紀	27 黄疸

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、中止・延期する場合があります。

地域医療連携フォーラムのご案内

毎年夏に開催しております地域医療連携フォーラムにつきまして、今年度は秋に開催を企画しております。詳細が決まり次第ご案内いたします。

FAXによる受診予約について

患者支援センターでは、従来より地域のかかりつけ医の先生方からFAXによる紹介患者さんの受診予約を承っております。当日、患者さんは南棟（新棟）総合受付内の「1 紹介受付」にお越しいただくことで初診受付の手続きが不要となり、待ち時間の短縮になります。是非、FAXによる受診予約をご利用いただきますようお願い申し上げます。

FAX (089)926-9547(24時間受付)
TEL (089)926-9527(平日8:30~17:10)

※17:00以降にいただいたFAX
につきましては、翌日のお返事
とさせていただきます。

バックナンバーにつきましては当院ホームページからご覧いただけます。

■ 発行責任者 / 副院長（患者支援センター所長）藤崎 智明
■ 編集 / 松山赤十字病院・患者支援センター 〒790-8524 松山市文京町1番地
TEL 089-926-9527 FAX 089-926-9547 <http://www.matsuyama.jrc.or.jp/>